

産業多角化への取組
～「インダストリアル・パーク」と「産業地区」の設置～

2020 年 11 月 6 日付の経済トピック「インダストリアル・パークの取組」でも紹介したとおり、アゼルバイジャン政府は、輸入代替・輸出促進を目的とする製造業の育成・誘致のため、アゼルバイジャン国内各地に「インダストリアル・パーク」と「産業地区」を設立しました。

当地報道(Report.az 通信)に掲載されたアゼルバイジャン政府の同取組に関する記事概要を以下のとおり紹介します。

1. 産業の多角化、即ち非石油・ガス部門の産業開発はアゼルバイジャン経済の優先課題であり、アゼルバイジャン政府は鋭意取組中です。インダストリアル・パーク及び産業地区(Industrial District)は2013年に大統領令により設置され国内製造業の発展に関して重要な役割を演じています。特にスムガイト化学インダストリアル・パークは南コーカサスで最大規模を誇ります。
2. インダストリアル・パークの最大の利点は関連生産施設のクラスター形成であり、集合し相互に補完し合う関連生産拠点は生産体制を合理化すると共に、生産施設が分散した状況に比べ輸送コストを大幅に削減することができます。生産、保管(倉庫)、事務所ビル、通信等の施設全体が統一管理できる点も同パークの利点です。アゼルバイジャンで運営されているインダストリアル・パークは全て国営であり、土地、輸送通信施設、電気、ガス、水の供給設備等は政府により提供されています。また、同パークへの入居企業は、低額な借料、所得税と固定資産税の10年間免除、生産用設備や技術の輸入に係る付加価値税と輸入税の7年間免除といった優遇措置を受けることができます。
3. パーク別に見ると、先ずスムガイト化学インダストリアル・パーク(バクー北隣)は化学、金属、機械、情報通信その他のハイテク部門の生産拠点です。ミンゲチェヴィル・パーク(中西部)は繊維、カラダグ・パーク(バクー市)は造船及び関連設備、ピララフ・パーク(バクー市)は薬品、医療用資機材及び動物用医薬品等、建設途中のアグダム・パーク(南西部)は建設資材、食品その他の軽工業が主要な生産部門であり、アグダム・パークは解放地域の復興開発拠点となることが期待されています。
4. 産業地区は、より大規模なインダストリアル・パークとは別に、中小の製造企業やサービスの育成を目的として設立されました。51カ所の農業パークと併せ、農産物及び同

加工品の生産を連動させ、「農地から店頭まで」の生産流通回路を整備することでコスト削減と競争力向上を目指しています。

5. インダストリアル・パーク、産業地区等の稼働促進と外資誘致のため、2021年1月の大統領令により経済省の下に経済地域開発庁(Economic Zones Development Agency)が立ち上げられました。これらの特別経済地域創設により、ハイテク部門の技術革新、産業の競争力、生産力の向上及び雇用の創出が期待されています。
6. 経済地域開発庁によれば、4 か所の稼働中のインダストリアル・パークの入居企業により8,000人の雇用が創出されました。また、同パークへの投資額目標とされた38億ドルのうち既に35億ドルの投資がなされています。産業地区への投資額は7,300万マナトであり、286人の雇用が創出されました。
7. 経済省は2025年までに非石油・ガス部門の輸出額を2倍に増加させることを目指しています。既に2021年上半期の非石油・ガス部門の輸出は前年同期比27.1%増、金額ベースでは11億6,000万ドルを超えました。中でも、工業製品輸出は前年同期比40.1%の増加を記録し、輸出額全体の50%以上を占めました。

(以上)